

2020 年度 園内研究

<テーマ> 伝承遊び

～子どもたちはどのようにして伝承遊びを知り、伝承していくのか～

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがどのように伝承遊びを知り、楽しんでいるのかを保育者が認識する。 ・保育者自身もどのような伝承遊びを楽しんできたのかを共有する。 ・保育者の伝承遊びのレパートリーを増やし、子どもたちの遊びの幅を広げていく。
活動の記録	<ul style="list-style-type: none"> ・お正月遊び(ひもごま、すごろく、かるた等)に見る子ども同士の関わり【指導案作成】 ・3グループ縦割り活動での伝承遊び(かごめかごめ、なべなべそこぬけ等)【指導案作成】 ・異年齢での日常の関わり(はないちもんめ、手あわせ歌)

<活動、遊びを通しての子どもの姿>

年長(きりん組)	年中(うさぎ組)	年少(ことり組)
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者からの援助があり、ルールを知り、遊びに取り入れていく。 ・自分たちのルールを作りながら、どのようにして楽しめるかを考えられる。 ・年中児にも優しくルールを教えたり、年上として遊びをリードしたりする姿が見られる。 ・自分が手本となることで、年下の友だちの注目を集めようとする子どもも見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児や保育者から、聞いて知った伝承遊びを、自分たちでそれぞれ解釈し、取り入れ遊ぶ姿が見られる。 ・年上の子どもと一緒に遊びに触れることで、挑戦する意欲を持つ姿が見られる。 ・年少児との関わりでは、自分たちの知っている伝承遊びを積極的に行い、年少児に見せることによって、興味を誘い、共に遊んでいく姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知らない遊びに興味を持ち、少しずつ関わりながら、ルールを知り、覚えていく姿が見られる。 ・ルールを覚えると、年少児のクラスでも、自然と遊びが始まっていくようになった。

【これからの課題】

- ・日常の遊びの中でも、異年齢が関わることで子ども同士の意欲、興味の変化などに着目する。
- ・子ども同士が伝達（伝承）していく姿を見守る一方で、ある程度の正しいルールや、安全な遊具の使い方などは、保育者が指導していく必要があると言える。



3グループ縦割り活動での“かごめかごめ”



ひもごま回しを教えてもらう年中児